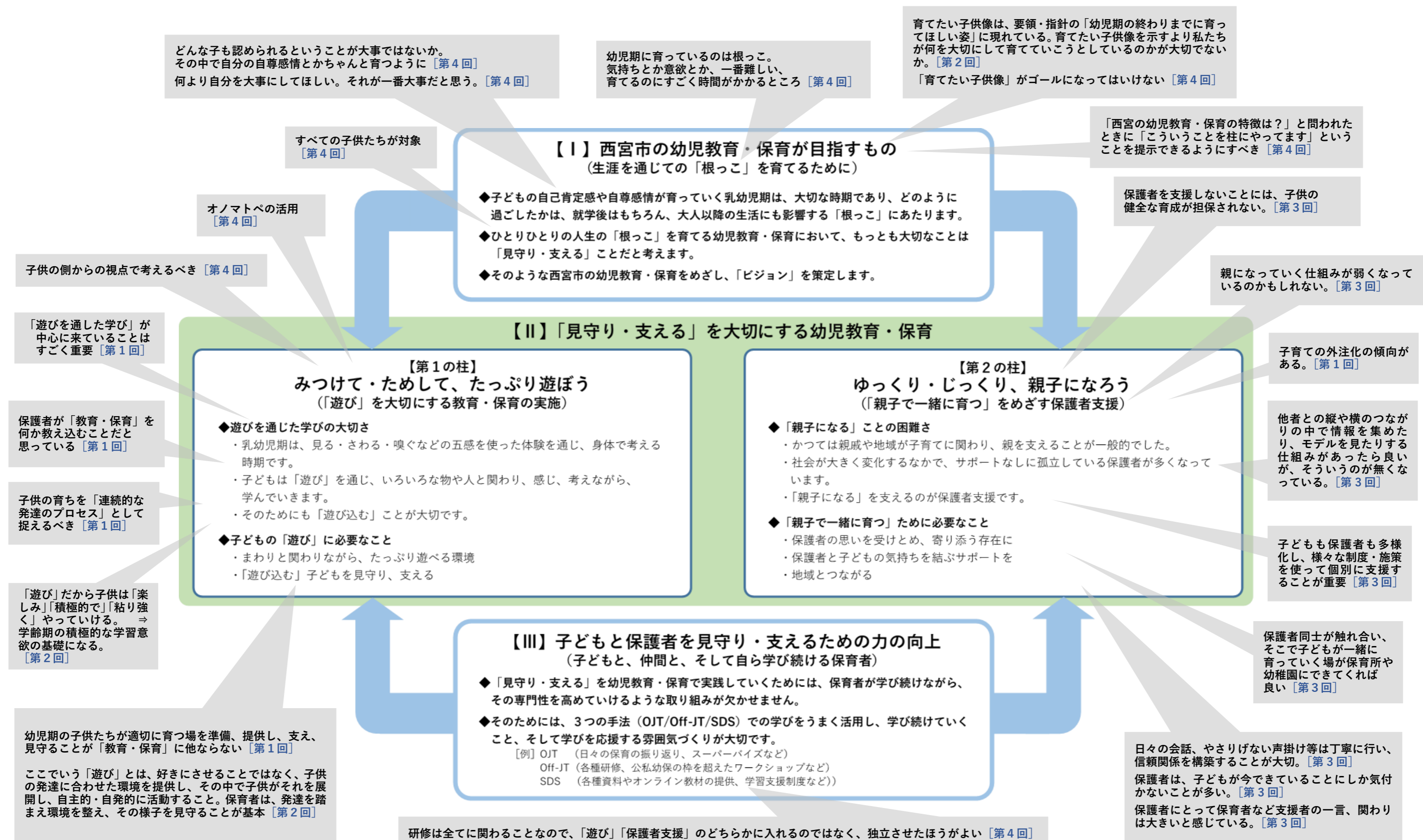


◆これまでの幼児教育・保育ビジョン策定 WT の議論と中間報告の概要



どんな子も認められるということが大事ではないか。その中で自分の自尊感情とかちゃんと育つように [第4回]
何より自分を大事にしてほしい。それが一番大事だと思う。 [第4回]

幼児期に育っているのは根っこ。気持ちとか意欲とか、一番難しい、育てるのにすごく時間がかかるところ [第4回]

育てたい子供像は、要領・指針の「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」に現れている。育てたい子供像を示すより私たちが何を大切に育てていこうとしているのかが大切でないか。 [第2回]
「育てたい子供像」がゴールになってはいけない [第4回]

すべての子供たちが対象 [第4回]

「西宮の幼児教育・保育の特徴は？」と問われたときに「こういうことを柱にやっています」ということを提示できるようにすべき [第4回]

オノマトペの活用 [第4回]

保護者を支援しないことには、子供の健全な育成が担保されない。 [第3回]

子供の側からの視点で考えるべき [第4回]

親になっていく仕組みが弱くなっているのかもしれない。 [第3回]

「遊びを通じた学び」が中心に来ていることはすごく重要 [第1回]

保護者が「教育・保育」を何か教え込むことだと思っている [第1回]

子供の育ちを「連続的な発達のプロセス」として捉えるべき [第1回]

「遊び」だから子供は「楽しみ」「積極的で」「粘り強く」やっていける。⇒学齢期の積極的な学習意欲の基礎になる。 [第2回]

子育ての外注化の傾向がある。 [第1回]

他者との縦や横のつながりの中で情報を集めたり、モデルを見たりする仕組みがあったら良いが、そういうのが無くなっている。 [第3回]

子どもも保護者も多様化し、様々な制度・施策を使って個別に支援することが重要 [第3回]

幼児期の子供たちが適切に育つ場を準備、提供し、支え、見守ることが「教育・保育」に他ならない [第1回]

ここでいう「遊び」とは、好きにさせることではなく、子供の発達に合わせた環境を提供し、その中で子供がそれを展開し、自主的・自発的に活動すること。保育者は、発達を踏まえ環境を整え、その様子を見守ることが基本 [第2回]

保護者同士が触れ合い、そこで子どもと一緒に育っていく場が保育所や幼稚園にできてくれば良い [第3回]

日々の会話、やさりげない声掛け等は丁寧に行い、信頼関係を構築することが大切。 [第3回]
保護者は、子どもが今できていることにしか気が付かないことが多い。 [第3回]
保護者にとって保育者など支援者の一言、関わりは大きいと感じている。 [第3回]

研修は全てに関わることなので、「遊び」「保護者支援」のどちらかに入れるのではなく、独立させたほうがよい [第4回]